神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

論題	神奈川県立歴史博物館所蔵の旧横浜正金銀行調査部図書について ―旧横浜正金銀行資料コレクションの紹介　その 1―
著者	寺嵜弘康
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告―人文科学―　第 33 号
ISSN	0910-9730
刊行年月	2007 年（平成 19 年）3 月
判型	A4（210mm × 297mm）

【資料紹介】

神奈川県立歴史博物館所蔵の旧横浜正金銀行調査部図書について

―旧横浜正金銀行資料コレクションの紹介―　その1

寺嵜弘康

【キーワード】
横浜正金銀行　資料コレクション　蔵書　蔵書印

【要旨】
神奈川県立歴史博物館で収蔵する横浜正金銀行に関する資料類（旧横浜正金銀行資料コレクション）について、集積の経緯とその内容についての概要を説明し、その中から旧横浜正金銀行調査部蔵書に押されている蔵書印を分類し、その特徴について紹介する。

一　旧横浜正金銀行資料コレクションの概要

神奈川県立歴史博物館は、旧横浜正金銀行本店建築を利用した博物館であることから、同行の国内業務を継承した東京銀行と、横浜正金銀行及び東京銀行の行員の同窓組織である正友会からの全面的な協力を得て、一九六七（昭和四十二）年の県立博物館開館時に常設の「横浜正金銀行展示資料室」を設置し、同行の歴史を多様な資料により紹介していた。その後、県立博物館の常設展示計画の見直しにともない「横浜正金銀行展示資料室」は一端閉鎖されるものの、横浜正金銀行に関係する諸資料の収集は継続しておこなわれてきた。

一九九五（平成七）年三月に県立博物館が県立歴史博物館としてリニューアルする際に、横浜正金銀行の営業室内壁などを復元すると同時に、常設展示室の一角に横浜正金銀行コーナーを再び設置することになった。翌九六年三月には、三菱銀行との合併を前に東京銀行調査部より図書類の寄贈を受け、さらに二〇〇四（平成十六）年には横浜正金銀行本店創建一〇〇周年を記念して東京三菱銀行より旧東京銀行コイン室の貨幣類が一括寄贈され、当館における横浜正金銀行関係資料は充実することになった。これらの資料群は「旧横浜正金銀行資料コレクション」と総称し、整理・データベース化をおこない、展示などの公開や、調査研究事業などに活用している。

旧横浜正金銀行資料コレクションは以下のとおり六つの資料グループに区分できる。

1　東京銀行横浜支店有償譲渡の際の引継資料

2　東京銀行時代からの借用資料
3　東京銀行調査部蔵書
4　東京三菱銀行寄贈の国内外の貨幣・紙幣類
5　県立博物館時代から収集した資料
6　横浜正金銀行行員資料

1　一九六四（昭和三十九）年に、東京銀行が神奈川県に同行横浜支店（旧横浜正金銀行本店）の土地・建物を有償で譲渡した際に、建物とともに引き継いだ資料で、①旧横浜正金銀行の備品タグ（ＹＳＢ）が打たれた調度什器類や防火シャッターの巻き上げハンドルなど、②旧横浜正金銀行本店の大型写真、③関東大震災後の本店修理関係の工事図面や書類である。

①の調度什器については、県立博物館開館当初から勤務している職員の話によれば、机などは事務用や資料整理用として多くがそのまま使用されていたが、破損したり新規のスチール製机との交換などにより廃棄されてしまい、現在では帳簿立二基、小物収納箱一台、書類引出一台しか確認できない。このほか東京銀行時代の行員机や椅子も少数であるが現存している。関東大震災後の修復工事の際に、窓サッシュや防火用ギア式シャッターの修理がおこなわれるが、修理されないで創建当時のものもあり、そのシャッター巻き上げ用のハンドルも残存している。②の大型写真は、一九〇四（明治三十七）年の本店創建時に小川一真が撮影した全景写真を、縦六十㎝横七十二㎝の大判に引き伸ばして額装しており、状態などから関東大震災後から昭和初年に制作されたと推定される。また、関東大震災により焼失したドームを撤去した状態の全景写真もあるが、これは東京銀行時代に作成されたものと思われる。③の図面類は、横浜正金銀行の行章が孔版印刷された文書箱（杉板製）に納められていたもので、平成五年に博物館の地下倉庫から発見された資料である。本店の震災修復工事関係の書類、横浜市西区宮崎町に震災後に建設された「横浜正金銀行接客所」の建築関係の書類二十一件である。それぞれ整理番号と資料名が書類表紙や包装紙に同一の筆体により朱書きされているが、誰が整理したのかは不明である。

2　一九六七（昭和四十二）年県立博物館開館時に設置された「横浜正金銀行展示資料室」に陳列していた資料は東京銀行から借用していたもので、展示資料室の閉鎖後にも一部は継続して借用していた。一九九五（平成七）年にも数点を追加借用した分を含めて合計二十件三十一点の資料群である。その中には、明治十三年二月に大隈重信大蔵卿名で交付された「横浜正金銀行開業免状」をはじめ、横浜正金銀行閉鎖まで使用されていた銀行印、大正時代に作成された本支店の写真アルバム、一九二〇（大正九）年の創業四〇周年を記念して株主に贈呈された正金銀行の行章入朱塗木杯、一九三〇（昭和五）年英貨公債証書の見本などが含まれている。

3　一九九六（平成八）年二月に東京銀行調査部から寄贈された図書・雑誌類。同年四月一日に東京銀行と三菱銀行が合併することになり、それに先立ち東京銀行より横浜正金銀行時代の和洋の図書・雑誌類と横浜正金銀行が作成したパンフレット類を含む同行調査部架蔵の

図書・雑誌、段ボール一、二三六箱分を受け入れた。その中から横浜正金銀行の蔵書印または収受印が押印されている図書や雑誌類と、押印がなくても一九四七（昭和二十二）年一月一日の正金銀行改組以前に刊行された図書類を当館で選別した。その結果、一万三四三冊の「旧横浜正金銀行調査部蔵書」として公開しているが、閲覧に際しては事前の申請が必要である。仮目録は館内のミュージアムライブラリーで閲覧できる。また、右以外にも銀行史や経済・金融に関係する図書類は「東銀文庫」としてミュージアムライブラリー内の開架棚で公開している。

4　二〇〇四（平成十六）年七月、東京三菱銀行から日本国内外の貨幣紙幣類の寄贈を受け、さらに横浜正金銀行東京支店の什器類も受け入れた。前者の貨幣紙幣は、横浜正金銀行が収集していた内外の金銀貨類と東京銀行が一九九五（平成七）年度まで収集していた金銀コインや記念貨幣、横浜正金銀行が二十世紀初頭に中国（清国・中華民国）で発行した「横浜正金銀行券」、二十世紀前半に中国各地の諸銀行が発行した紙幣などで、総数は一万二三八一点を数え、整理点検の上、「日本国及び諸外国の貨幣・紙幣類」の名称で収蔵している。後者の什器類は、旧東京銀行本店（旧横浜正金銀行東京支店）に保管されていた金銀計測用天びん秤（明治十七年大蔵省造幣局製造）、「正金」の文字入りの消防ホースや消防用刺子地のヘルメット、正金銀行のタグの付いたテーブルといった什品などを、特別展「横浜正金銀行」にあわせて受入れた。金銀計測用の天びん秤は、もともと横浜正金銀行本店の「改銀場」に設置され、正金（金銀塊・金銀貨）の計測に用いられたもので、本来設置されていた本店へと里帰りした資料である。消防関係の資料は、一九三九（昭和十四）年から大規模営業所（百人以上）に設置が義務化された特設防護団（防空や防火のための自衛消防組織）で使用された用具で、横浜正金銀行東京支店では「正金特設防護団組織要綱」に基づき防空演習や消防訓練で用いたのである。ちなみに東京支店では隣接の日本銀行、三越と共同した消防訓練が戦前からおこなわれていたという。

5　当館で収集した資料は、一九〇四（明治三十七）年本店建築落成の際に作成された『横浜正金銀行建築要覧』、同じく新築落成の際に花崗岩を納入した業者への感謝状、一八九九（明治三十二）年改正の『横浜正金銀行定款』、株主総会通知状、昭和期の横浜正金銀行の辞令類、株主総会の時に株主に送られた紅白の正金銀行徽章が描かれた漆塗の菓子箱などである。

6　特別展「横浜正金銀行」の開催をきっかけに、横浜正金銀行の行員の遺族やご本人から資料提供の申し出があり、それらは現在整理作業をしている。ジュール・ヴェルヌの『八十日間世界一周』の翻訳者として有名である川島忠之助は、横浜正金銀行リヨン支店が一八八二（明治十五）年に設置される際に初代支配人として赴任した人物であるが、その関係資料中には本支店間の業務通信（複写書簡）や写真等が含まれている。また第十四代頭取柏木秀茂の手元にあった書類や写真も同様である。柏木秀茂の資料中には、横浜正金銀行入行に際して松方正義が副頭取の高橋是清に充てた紹介状があり、横浜正金銀行への就職の背景をうかがわせる興味深い内容である。また、川崎造船

の永留取締役からヘッドハンティングの打診で受けて、身の振り方に苦悩する柏木に対して、井上準之助頭取が柏木を慰留する書簡も含まれている。そのほか欧米勤務が長かったためか、外国人の写真や書簡なども多数ある。

二　旧横浜正金銀行調査部蔵書と蔵書印

次に旧横浜正金銀行資料コレクションの中で、横浜正金銀行調査部蔵書の概要を紹介し、蔵書中に押されている蔵書印などの特徴を紹介する。蔵書は、基本的には横浜正金銀行調査部が所蔵していた図書類で、一部東京銀行時代に収集したものも含まれる。内訳は和書七、七七九冊（一般図書三、〇九四冊、逐次刊行物三、九五四冊、横浜正金銀行編集発行物七三一冊）、洋書二、五六五冊（一般図書二、一九八冊、逐次刊行物二六七冊）である。

横浜正金銀行調査部とは、一八九五（明治二十八）年の横浜正金銀行内規により設置された調査課が前身で、一九四一（昭和十六）年五月二十二日の頭取席事務改正により調査部と改称した。その職務は、頭取もしくは担当取締役の指揮を受けて「貿易、財政、金融、商況其他重要事項ノ調査、報告及図書ノ整理、保管事務」と定められている（『重役会備忘録　第七冊』マイクロフィルム「横浜正金銀行」）。調査部（課）では内外の貿易、財政、金融、商況などの調査業務をおこない、その調査結果を『行報』、『通報』、『調査報告』、『調査資料』といった行内用印刷物としてまとめているが、業務遂行のためには、貿易や金融、経済や政治に関するさまざまな図書を収集し、あるいは内外の支店からさまざまな現地からの報告や統計資料などを入手していたのである。その結果、調査部には国内だけでなく世界各国の政治、経済、財政、貿易、社会、地理、言語などの多様な分野の図書類が集積されたことは容易に想像できるであろう。

実際に、横浜正金銀行調査部にはどれだけの蔵書が架蔵されていたのであろうか。その数値を把握できていないが、一九二三（大正十二）年の関東大震災によって本店内部が地下金庫室を除きほぼ全焼したため、架蔵の主要帳簿と一緒に図書類の多くが焼失したといわれていることから、「旧横浜正金銀行調査部蔵書」は震災以降に収集した図書が中心であると考えられる。しかし、実際には、震災後に各地の支店から調査部へ回送された図書、役員や行員などから寄附された図書もあるためか、震災前に発行された図書も少なくない。

第二次世界大戦後、横浜正金銀行の国内営業を譲渡された東京銀行は、旧横浜正金銀行調査部の蔵書も引き継いだが、一九五九（昭和三四）年と六〇年の二度にわたり和漢書・資料類約一八、〇〇〇冊を東京大学東洋文化研究所に寄贈している。寄贈の理由は定かでないが、東洋文化研究所では必要なアジア関係の図書を中心に「東京銀行調査部旧蔵資料」として収蔵し、それ以外の図書は東京大学経済学部図書館に移管されている。東京大学に寄贈されてもなお多数の図書類が東京銀行調査部に残存していたが、前述のような関係で東京銀行調査部から神奈川県立歴史博物館に寄贈されたのである。蔵書の内容は「旧横浜正金銀行調査部蔵書」仮目録を参照いただきたい。

さて、図書には一三〇種類を越える蔵書印や仕切印などの印章が押

表1　横浜正金銀行蔵書印

No.	種別		印影	押印年月日			枠特徴	印材	寸法mm	印影No.
1	A 蔵書印	①銀行名	横浜正金銀行蔵書印				角印	ゴム	縦35×横35	005
2			横浜正金銀行蔵書印				角印	木	縦35×横37	006
3			横浜正金銀行図書 No 900	欠	欠	欠	正円子持枠	ゴム	径45	087
4			横浜正金銀行文庫印 第 号 冊之内				角印	木	縦44×横44	004
5		②調査課名	THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA JAPAN 調査課 図書	1922	4	2	楕円子持枠	ゴム	縦30×横46	014
6			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. 横浜正金銀行 [調査課] 図書	1921	1		楕円子持枠	ゴム	縦30×横46	026
7			横浜正金銀行調査課図書	1928	3	15	楕円子持枠	ゴム	縦33×横48	036
8			横浜正金銀行調査課之図書				角印	ゴム	縦59×横51	001
9			横浜正金銀行調査課之図書				角印	ゴム	縦59×横51	002
10			横浜正金銀行調査課之図書				角印	ゴム	縦59×横51	003
11		③支店名	横浜正金銀行東京支店 図書之印	1924			正円子持枠	ゴム	径35	084
12			横浜正金銀行東京支店 図書之章	(大正)8 (1919)	9	12	正円子持枠	ゴム	径40	085
13			横浜正金銀行東京支店蔵書				角印	木	縦35×横35	008
14			横浜正金銀行東京支店蔵書				角印	木	縦35×横35	009
15			横浜正金銀行東京支店蔵書				角印	木	縦45×横45	010
16			横浜正金銀行北京支店図書室之印				角印	木	縦39×横44	013
17	B 仕切印	①銀行名	THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. REGISTERED IN JAPAN	1930	9	15	楕円子持枠	ゴム	縦31×横53	039
18			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. REGISTERED IN JAPAN	1916	12	4	楕円子持枠	ゴム	縦33×横51	038
19			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.	1908	10	29	楕円子持枠	ゴム	縦30×横51	150
20			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA	1922	4	26	楕円子持枠	ゴム	縦29×横46	022
21			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA	1927	12	27	楕円子持枠	ゴム	縦29×横48	020
22			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA JAPAN	1921	1	19	楕円子持枠	ゴム	縦29×横46	021
23			YOKOHAMA SPECIE BANK, Ltd. Yokohama Japan	1897	10	22	楕円子持枠	ゴム	縦22×横40	023
24			YSB Yokohama	(大正)7 (1918)	12	2	正円子持枠	ゴム	径28	083
25			(Y.S.B.) (Yokohama)	(大正)10 (1921)	1	18	正円枠	ゴム	径25	075
26		②部課名	THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA JAPAN 調査部	1920	5	1	楕円子持枠	ゴム	縦30×横46	017
27			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. 横浜正金銀行 調査課	1924	6	23	楕円子持枠	ゴム	縦29×横45	025
28			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA JAPAN 調査課	1924	9	3	楕円子持枠	ゴム	縦30×横46	015
29			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA JAPAN 調査課	1926	6	16	楕円子持枠	ゴム	縦30×横46	016
30			THE YOKOHAMA SPECIE BANK ECONOMIC RESEARCH Dept. 横浜正金銀行 調査課	1939	9	18	楕円子持枠	ゴム	縦31×横45	018
31			THE YOKOHAMA SPECIE BANK ECONOMIC RESEARCH Dept. 横浜正金銀行 調査部	1943	7	13	楕円子持枠	ゴム	縦31×横45	019
32			横浜正金銀行 頭取席調査課	1912	10	18	楕円子持枠	ゴム	縦27×横42	028
33			横浜正金銀行 頭取席調査課 大正	2 (1913)	10	16	楕円子持枠	ゴム	縦27×横41	031
34			横浜正金銀行 頭取席調査課	大正8 (1919)	11	3	楕円子持枠	ゴム	縦28×横42	032
35			横浜正金銀行 頭取席調査課 購入	1924	3	7	楕円子持枠	ゴム	縦32×横42	037
36			調査課 受付 担任 Index 掲載	1938	9	8	角印	ゴム	縦44×横31	096
37			調査課 部長 担任 受付 返信 Index 掲載	1926	5	27	角印	ゴム	縦38×横25	097
38			調査 Y.S.B.	1921	6	6	正円枠	ゴム	径29	070
39			横浜正金銀行 検査部	1911	8	8	楕円子持枠	ゴム	縦28×横42	149
40			INSPECTED 検査課	1922	10	18	楕円子持枠	ゴム	縦28×横42	151
41			横浜正金銀行 検〔査課〕				楕円子持枠	ゴム	縦30×横45	033
42			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. INVESTIGATION DEPARTMENT	1934	3	7	楕円子持枠	ゴム	縦28×横44	052
43			横浜正金銀行 総務部文書係	1912	7	2	楕円子持枠	ゴム	縦28×横42	035
44			文書課 Y.S.B.	1919	9	26	正円枠	ゴム	径29	073
45			正金 文書	1935	7	24	正円枠	ゴム	径30	081

No.	種別		印影	押印年月日			枠特徴	印材	寸法mm	印影No.
46	B 仕切印	②部課名	正金　文書	1942	7	14	正円子持枠	ゴム	径30	082
47			横浜正金銀行　計算課　明治	41 (1908)	3	16	楕円子持枠	ゴム	縦29×横43	030
48			横浜正金銀行　総務部計算係	1911	12	1	楕円子持枠	ゴム	縦28×横42	027
49			横浜正金銀行　頭取席計算課	1927	4	4	楕円子持枠	ゴム	縦30×横44	029
50			横浜正金銀行総務部				楕円枠	ゴム	縦43×横30	007
51			横浜正金銀行本店　総務部行報係	1908	12	30	楕円子持枠	ゴム	縦28×横45	034
52			横浜正金銀行　簿書保在係　明治	44 (1911)	12	20	正円子持枠	ゴム	径38	086
53			秘書課　Y.S.B.	1933	5	9	正円枠	ゴム	径29	071
54			秘書部　Y.S.B.	1941		3	正円枠	ゴム	径30	153
55			借款課　Y.S.B.	1922	2	2	正円枠	ゴム	径29	074
56			庶務課　Y.S.B.	1925	1	31	正円枠	ゴム	径29	072
57			DENSHINKA　Y.S.B.	1923	6	14	正円枠	ゴム	径29	077
58			G. M. O.　Y.S.B.	1915	4	12	正円枠	ゴム	径28	076
59			Y. S. B.　支配席	(大正)11 (1922)	1	20	正円枠	ゴム	径28	079
60			Y. S. B.　信用調査	1934	4	17	正円子持枠	ゴム	径30	080
61			東京総務係		1	26	正円子持枠	ゴム	径26	088
62		③支店名	THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. KOBE BRANCH	1921	6	24	楕円子持枠	ゴム	縦33×横48	042
63			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. TOKYO BRANCH	1907	11	22	楕円子持枠	ゴム	縦26×横45	041
64			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. TOKYO BRANCH	1924	4	18	楕円子持枠	ゴム	縦28×横43	040
65			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. YOKOHAMA Shimonoseki, Japan	1926	3	9	楕円子持枠	ゴム	縦28×横47	024
66			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. MARUNOUCHI< AGENCY	1928	3	6	楕円子持枠	ゴム	縦30×横46	043
67			受付　Y. S. B.　丸之内	1939	2	9	正円枠	ゴム	径36	078
68			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. CHEFOO	1908	6	1	楕円子持枠	ゴム	縦28×横43	050
69			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, L'D TIENTSIN	1912	3	4	楕円子持枠	ゴム	縦29×横46	066
70			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, L'D TSINAN	1917	6	24	楕円子持枠	ゴム	縦29×横46	065
71			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. HONG KONG	1939	3	6	楕円子持枠	ゴム	縦29×横50	051
72			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. SHANGHAI	1942	8	29	正円子持枠	ゴム	径37	089
73			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, L'D DAIREN	1942	6	17	楕円子持枠	ゴム	縦33×横50	067
74			THE YOKOHAMA SPECIE BANK LIMITED -7- BISHOPGATE LONDON				楕円子持枠	ゴム	縦26×横36	053
75			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LIMITED NEW YORK AGENCY	1912	9	16	楕円子持枠	ゴム	縦31×横41	055
76			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LIMITED NEW YORK AGENCY	1925	3	18	楕円子持枠	ゴム	縦31×横47	056
77			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. NEW YORK REC'D JUN 9- 1936	1936	6	9	角印	ゴム	縦30×横49	057
78			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, L'd. SAN FRANCISCO, U.S.A.	1910	8	9	楕円子持枠	ゴム	縦29×横50	061
79			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. SAN FRANCISCO, U.S.A. No 25B	1929	2	31	楕円子持枠	ゴム	縦34×横47	062
80			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. SEATTLE	1940	2	28	楕円子持枠	ゴム	縦20×横47	063
81			(　) De YOKOHAMA (　) de LYON	1921	4	9	楕円子持枠	ゴム	縦25×横43	152
82			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. Agence de PARIS	1937	?	8	楕円子持枠	ゴム	縦29×横50	058
83			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. ALEXANDRIA	1934	9	?	楕円子持枠	ゴム	縦33×横53	044
84			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. SYDNEY	1941	3	19	楕円子持枠	ゴム	縦36×横58	064
85			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. REGISTERED IN JAPAN BOMBAY	1919	9	12	楕円子持枠	ゴム	縦32×横53	045
86			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. REGISTERED IN JAPAN BOMBAY	1940	4	9	楕円子持枠	ゴム	縦32×横53	047

No.	種別		印影	押印年月日			枠特徴	印材	寸法mm	印影No.
87	B 仕切印	③支店名	THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. REGISTERED IN JAPAN BOMBAY				楕円子持枠	ゴム	縦32×横53	046
88			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. CALCUTTA	1934	12	20	楕円子持枠	ゴム	縦32×横53	049
89			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. MANILA	194?	4	28	楕円子持枠	ゴム	縦29×横48	054
90			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. SAIGON	1924	8	27	楕円子持枠	ゴム	縦29×横45	060
91			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. RIO DE JANEIRO	1940	12	9	楕円子持枠	ゴム	縦28×横46	059
92			THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. BUENOS AIRES	1920	4	15	楕円子持枠	ゴム	縦34×横53	048
93	C 所属印	①国内	横浜正金銀行　頭取席				縦長無枠	ゴム	縦55×横15	104
94			横浜正金銀行　頭取席調査課				縦長無枠	ゴム	縦59×横103	105
95			頭取席調査課				縦長無枠	ゴム	縦42×横8	108
96			調査部				縦長有枠	ゴム	縦42×横12	114
97			横浜正金銀行　頭取専属秘書役室				縦長無枠	ゴム	縦59×横13	106
98			秘書室				縦長無枠	ゴム	縦22×横7	118
99			頭取席内国課				縦長無枠	ゴム	縦52×横8	109
100			横浜正金銀行　外国課				縦長無枠	ゴム	縦47×横15	107
101			外国課				縦長有枠	木	縦40×横24	115
102			頭取席欧米課				縦長無枠	ゴム	縦49×横8	112
103			欧米課				縦長有枠	ゴム	縦42×横25	116
104			横浜正金銀行　外国□□部				角印	木	縦35×横23	095
105			頭取席検査課				縦長無枠	ゴム	縦54×横7	110
106			頭取席為替部				縦長無枠	ゴム	縦44×横8	111
107			為替管理係				縦長有枠	ゴム	縦80×横20	117
108			総務部　計算係				縦長無枠	ゴム	縦52×横15	113
109			支配人席				縦長無枠	ゴム	縦35×横9	119
110		②海外支店	横浜正金銀行　牛荘支店支配人				縦長無枠	ゴム	縦56×横14	125
111			横浜正金銀行　漢口支店				縦長無枠	ゴム	縦45×横15	124
112			横浜正金銀行　上海支店				縦長無枠	ゴム	縦62×横12	123a
113			横浜正金銀行　上海支店				縦長無枠	ゴム	縦47×横13	123b
114			横浜正金銀行　香港支店支配人				縦長無枠	ゴム	縦45×横15	126
115			横浜正金銀行　桑港支店				縦長無枠	ゴム	縦57×横15	121
116			横浜正金銀行　シアトル支店				縦長無枠	ゴム	縦48×横12	122
117			横浜正金銀行　巴里支店				縦長無枠	ゴム	縦57×横12	127
118			横浜正金銀行　漢堡支店				縦長無枠	ゴム	縦59×横6	128
119			横浜正金銀行　西貢支店				縦長無枠	ゴム	縦57×横7	120
120	D その他	①寄贈・購入	大正　年　月　日購入 横浜正金銀行　調査課	1922	11	16	縦長有枠	ゴム	縦66×横18	100
121			ヨリ購入　昭和　年　月　日				縦長有枠	ゴム	縦42×横18	102
122			寄贈 大正　年　月　日 横浜正金銀行　調査課	1922	1	30	縦長有枠	ゴム	縦55×横40	101
123			寄贈　昭和　年　月　日				縦長有枠	ゴム	径27	103
124		②回覧	出納　送金　為替　信用状　輸入　貸付　秘書　調査 電信　計算　用度　輸出　預金	1936	3	7	丸放射枠	ゴム	径48	098
125			出納　送金　信用状　輸入　貸付　秘書　調査　電信 計算　用度　輸出　預金				丸放射枠	ゴム	径65	099
126			調査課回覧				縦長無枠	ゴム	縦29×横5	130
127		③その他	頭取席調査課御中				縦長無枠	ゴム	縦76×横10	131
128			横浜正金銀行				縦長有枠	木	縦30×横15	147
129			ＹＳＢ Ｔ				正円枠	ゴム	径9	092
130			調査資料				縦長有枠	ゴム	縦61×横17	129
131			極秘				縦長無枠	ゴム	縦28×横15	136
132			極秘				縦長有枠	ゴム	縦30×横15	137
133			秘				正方有枠	ゴム	縦11×横11	132
134			秘				正方有枠	ゴム	縦15×横16	133
135			秘				正円枠	ゴム	径29	134
136			秘				正円枠	ゴム	径25	135

されている。全く押印のない図書もあるが、一冊の図書に複数の印が押されている場合が多い。表1は、横浜正金銀行関係の印章一覧である。ここでいう印章の区分であるが、横浜正金銀行（部課・支店）の「蔵書」であることが明示されているものを蔵書印と呼び、部課や支店で図書が受け入れられたことを示すものが「仕切印」で、単に所属部課を示す「所属印」、そしてその他印章の四つに区別できる。一般に仕切印は文書の収受年月日などを記録するため、回転式文字盤が付けられた印章のことであるが、この表では仕切印の形状を有しながらも「図書」の印影が含まれている場合には、便宜的に蔵書印として区分した。今後の研究により妥当な区分を施したい。

A　蔵書印

蔵書印は十六種類確認できる。

①行名　No.1（図1）とNo.2（図2左上）は「横浜正金銀行蔵書印」の隷書体の印影で、No.1の方がNo.2に比べて文字が大きい。No.1とNo.2は併用されている場合もあるが、一九一八（大正七）年前後で移行している。No.4（図3）の「横浜正金銀行文庫印」は楷書体で、印上部に「第　号　冊之内」という文字があり、図書番号を記入するようになっている。一九〇〇（明治三十三）年から一九一一（明治四十四）年にかけて使用されたものである。No.3（図4）は丸印で、上下に隷書体の「横浜正金銀行　図書」、中央に回転式の数字が押されているが、年代はない。No.5とNo.6は、仕切印の形状で、楕円形子持枠の中に「THE YOKOHAMA SPECIE BANK, Ltd. YOKOHAMA, JAPAN」「THE YOKOHAMA SPECIE BANK, Ltd. 横浜正金銀行」とあり、中央には回転式文字印で年月日、それを上下で挟むように「調査課」「図書」の印がある。図書を受け入れた際に年月日を記録するための印である。No.7も同様である。

②調査課名　もっとも多くの図書に押印されているのがNo.8とNo.9（図5）の「横浜正金銀行調査課之図書」印である。両者の違いは印影のゴシック書体が若干異なり、No.9に比べてNo.8の方が若干太い。両者の印は併用されていたようであるが、一九三五（昭和十）年を境にNo.8からNo.9へと移っているようである。No.10（図6）の「横浜正金銀行調査部之図書」印は、前述のとおり一九四一（昭和十六）年に調査課が調査部に組織変更されたことにより作成された印である。

③支店名　No.11からNo.16までは支店の蔵書印である。No.11と12は丸印で回転式文字が押されたものであるが、No.13以降はいずれも方寸の角印で支店名が押されている。No.15は印篆体の「横浜正金銀行東京支店蔵書」である。東京支店は一九〇〇（明治三十三）年に出張所から支店に昇格したことから、蔵書印はいずれもそれ以降のものである。図7はこの印が左上部に押されている図書の扉である。No.16の「横浜正金銀行北京支店図書室之印」は行書体の印影で、上部に図書番号が記入できる。北京支店の設置は一九〇二（明治三十五）年である。

B　仕切印

仕切印は七十六種類を数える。

①銀行名　No.17～No.23の仕切印は英文の銀行名と年月日で、ほぼ縦径30ミリ、横径48ミリの楕円形である。回転式文字の年代の表記には「年月日」方式と「月日年」方式の両方がある。No.24～25は正円の枠

の中に横浜正金銀行を示す「YSB」の文字があり、中央には回転式文字で年月日が押されている。仕切印の多くは西暦表記であるが、No.24とNo.25は元号を省略した和暦年表記を用いている。

②部課名　No.26～No.61は部課名印である。調査課をはじめ外国課、内国課、電信課、検査課、計算課、借款課、庶務課、秘書課、文書課など多様な種類が見られる。横浜正金銀行の頭取席（本店の業務全般を扱う部署の総称）の組織体制の変遷については表2のとおりであり、部課名印も組織変更に対応して作成されたと見なせよう。また、中央の回転式文字印には英文表記と、和文表記との両方がある。図8はNo.32の「頭取席調査課」の仕切印である。

③支店名　No.62～No.92は支店印で、多くは楕円で、外周に行名と支店名があり、中央に回転式文字という共通の様式であるが、表記が英文の場合と和文の場合の両方が見られる。支店名の仕切印が残存する支店（出張所を含む）としては、国内は神戸、東京、下関、丸ノ内出張所の四店のみで、外国支店はロンドン、シドニー、ニューヨーク、サンフランシスコ（図9）、シアトル、リオン、パリ、アレキサンドリア、ボンベイ、カルカッタ、マニラ、サイゴン、リオデジャネイロ、ブエノスアイレス、中国の大連、天津、芝罘、香港、上海の十九である。それらの開設年月日は表3を参照。

C　所属印

所属印は二十七で、国内と海外支店とに分けられる。組織の変遷は表3を参照されたい。海外支店ではNo.110やNo.114のような「支配人」印も見られる。

表2　横浜正金銀行頭取席組織変遷図（大正9年以降）

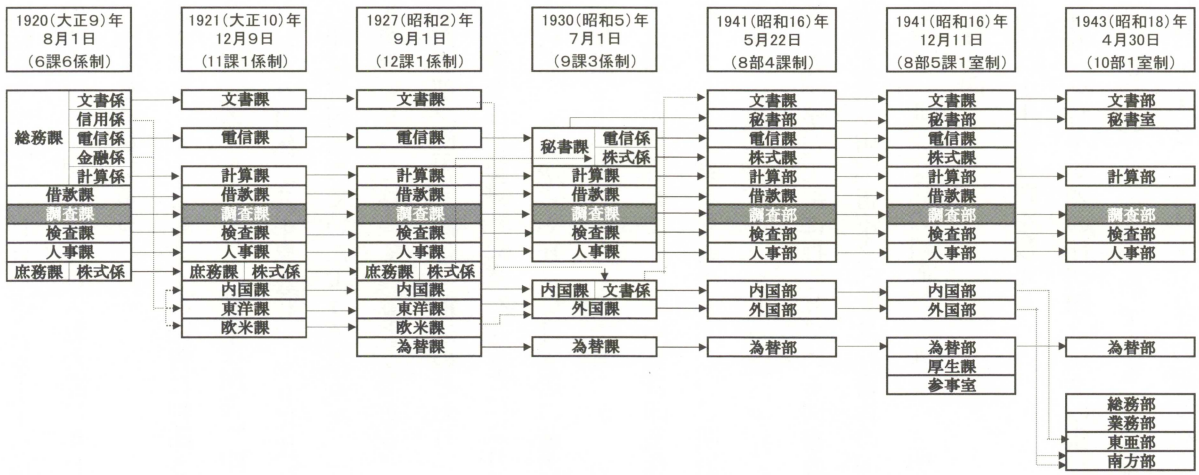

表3　蔵書印のある横浜正金銀行店舗の一覧

店舗名	開業時の店舗格と変遷	開業日	支店昇格日	閉鎖日
神戸	支店	1880.7.17		
東京	出張所→支店	1899.5.1	1900.1.1	
下関	出張所→支店	1918.3	1919.5.10	1938.11.4
	支店(再開)	1933.11.6		1939.3.10
丸の内	出張所	1927.7.11		1944.4.30
	出張所(再開)	1946.11.4		1947.3.27
店舗名	**開業時の店舗格と変遷**	**開業日**	**支店昇格日**	**閉鎖日**
牛荘(営口)	出張所→支店	1900.1.4	1919.5.10	1945.7.31
大連	出張所→支店	1904.8.22	1906.3.10	
上海	出張所→支店	1893.1.4	1900.1.1	
香港	出張所→支店	1896.9.15	1900.1.1	
天津	出張所→支店	1999.8.1	1900.1.1	
北京	支店	1902.1.21		
漢口	出張所→支店	1906.8.11	1908.3.10	
芝罘	出張所	1903.6.15		1909.9.30
	派出所→出張所→支店	1938.7.1	1941.3.10	
店舗名	**開業時の店舗格と変遷**	**開業日**	**支店昇格日**	**閉鎖日**
シドニー	出張所→支店	1915.8.3	1919.5.10	
アレキサンドリア	出張所→支店	1926.7.12	1940.3.9	1941.6.1
ロンドン	出張所→支店	1881.11.-	1884.12.1	
リオン	出張所→支店	1882.5.-	1901.1.1	1931.7.5
パリ	出張所→支店	1931.7.15	1933.10.1	1944.8.8
ハンブルグ	支店	1920.9.15		1945.5.16
ニューヨーク	出張所→支店	1880.8.-	1919.5.10	
サンフランシスコ	出張所→支店	1886.6.23	1900.1.1	
シアトル	出張所→支店	1917.6.9	1919.5.10	
ブエノスアイレス	出張所→支店	1918.5.-	1919.5.10	1929.10.31
リオデジャネイロ	支店	1919.7.1		
ボンベイ(現・ムンバイ)	出張所→支店	1894.12	1900.1.1	
カルカッタ	出張所→支店	1911.1	1919.5.10	
シンガポール	出張所→支店	1916.9.5	1919.5.10	1941.12.8
マニラ	出張所→支店	1918.3.11	1919.5.10	1941.12.8
	支店(再開)	1942.1.23		1945.1.6
サイゴン	出張所	1920.4.6		1931.3.31
	出張所(再開)→支店	1941.6.16	1942.3.10	1945.10.5

出典:『横浜正金銀行全史』第6巻(1984年刊行)により作成

D　その他

その他としては、図書の購入や寄贈を明記する印（No.120～No.123）や、頭取席各課で回覧する図書に押された印（No.124～No.125）もある。No.128はいわゆる「隠し印」と思われる。

おわりに

本稿では、旧横浜正金銀行調査部蔵書に押された蔵書印について紹介してきたが、この蔵書印からだけでは横浜正金銀行の姿を明らかにすることはできないのは当然のことである。しかし、世界各地からさまざまなま図書や資料が調査部に集積され、それをもとにさまざまな金融や経済の分析がなされ、世界三大為替銀行のひとつとまで称されたように横浜正金銀行が発展した背景には、同行のシンクタンクといえる情報の「金庫」としての調査部図書があったといえよう。

ただ、ひとつ残念なことは、横浜正金銀行から蔵書を引き継いだ東京銀行では、「横浜正金銀行調査課之図書」印の上に、これと同じ寸法枠の「東京銀行本店調査部之図書」印を上から重なるように押しており、あるいは墨汁で横浜正金銀行の印影を消している（図10）ものが多数見られるのである。太平洋戦争後、横浜正金銀行から営業譲渡を受けた東京銀行としては、横浜正金銀行というイメージを払拭したいという気持ちがあったのかどうかわからないが、図書の伝来がわかるように場所を変えて押す蔵書印本来のあり方からすれば実に残念なできごとである。

附記

昨年四月より当館デジタル・ミュージアム（ホームページhttp://ch.kanagawa-museu.jp）の中で、旧横浜正金銀行調査部図書の蔵書と蔵書印について一部を紹介しているので、あわせて参照いただきたい。

膨大な旧横浜正金銀行調査部図書の整理は吉澤智恵子嘱託が担当し、掲載の写真図版は浅井麻起子嘱託が撮影した。記して感謝の意を表する。

図3　横浜正金銀行文庫印

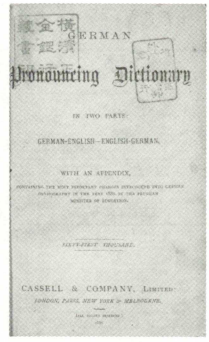

図2　横浜正金銀行蔵書印

図1　横浜正金銀行蔵書印

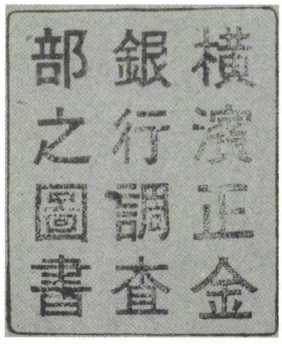

図6　横浜正金銀行調査部之図書

図5　横浜正金銀行調査課之図書

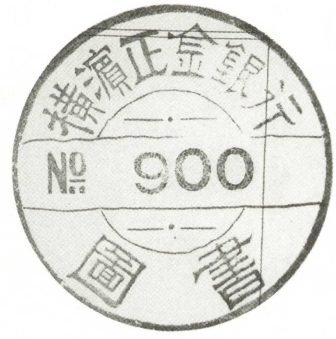

図4　横浜正金銀行図書

図8　横浜正金銀行頭取席調査課仕切印

図7　横浜正金銀行東京支店蔵書

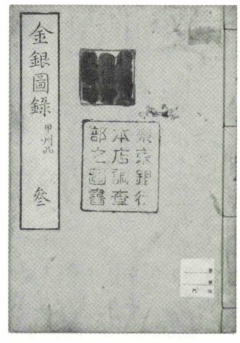

図10　蔵書印墨塗抹消の例

図9　横浜正金銀行サンフランシスコ支店仕切印